

正得公民館 意見交換会要旨録（人口減少社会の対策）

日 時：令和元年 11 月 26 日（火）19:00～20:00

場 所：正得公民館 和室

出席議員：出合議員、吉田議員、白井議員

吉田議員

先ほどパワーポイントで紹介させていただいたように、小矢部市の人口減少が止まらない。若い女性の数も少なく、出生者数も当然少ない。他市町村と競争して、移住定住について、施策として手厚くして、少しでも人口減少に歯止めをかけることを重要だと考えている。しかしながら、どの市町村も人口減少が進んでいる状況は同じであり、ある意味消耗戦と同じようになっている。特色を出しにくい、限られた財源の中でどうやっていくかということである。そういう意味からすれば、小矢部市が行っている、他市から移住して家を建てれば100万円出すという施策は特色のある打ち出しをしているが、それをもってしてもなかなか人口は増えない。若い女性が大学進学と同時に都市圏に出てしまうと、大学を卒業しても帰ってこないというものも、人口分布の中に極端に数字に現れている。結果的に、男性は配偶者に恵まれないという、厳しい争奪戦もある。30代の未婚率は将来の人口減少にさらに拍車をかけるのではないかと心配でならないような状況である。このあと、皆さんと意見交換をするが、小矢部市の人口減少に対してどんな手を打てばいいかということ 아이디어としてひとつお聞かせいただきたいと思っている。順番に発言を回していく形でご意見をお聞きしたい。

参加者

吉田議員からも話していただいたように、私も、37歳ということ以一市民として危機感を覚えている。定住促進の100万円の補助が出るというのは、この事業が始まったとき、高岡イオンの入口にバーンと看板が立っていて目立っていた。当時の私からすれば、すごくわかりやすかった。こういう世代を取り入れていくためには、具体的な数字を、例えば、結婚したら100万円、出産したら100万円、Uターンしたら100万円など、具体的な数字を出す若者は帰って来やすくなるし、結婚しやすくなるし、出産しやすくなると思う。予算があれば検討して欲しい。

吉田議員

若者には嬉しい制度だと。是非継続してもらえたらいいということだと思う。では、次に、お隣の方にご意見お伺いしたい。

参加者

小矢部市では、移住定住には手厚い施策があるが、それでもなかなか定住者が増えないということは、小矢部の魅力が出ていないのだと思

う。砺波市では、人口がどんどん増えているということを聞いている。なぜかと考えたときに、イオンモールができ、その周辺には住宅がどんどん建って定住者が増えた。小矢部市も宅地造成して、といっても入る人がいなければ何にもならないので、それなりの工場誘致をして、小矢部市への入り込みを増やしていくことが大事だと思う。また、縁結びさんなどが頑張っており、18組成婚されたが、そのうち、小矢部市に定住している人が1組しかいないということである。せっかく小矢部市で結びつけたのに、小矢部市に住まないというのはいかがなものかと思う。そのあたりも、しっかりと確認して、小矢部市に住めるような雰囲気を作っていただければと思う。

吉田議員

砺波と高岡の方が結婚して小矢部に住んでもらえれば言うことはない。

白井議員

先ほどの縁結びさんの件については、若い時は、会社の関係もあって、市外に出るが、最終的には実家の方で生活するようになると聞いている。

吉田議員

ではお隣の方お願いします。

参加者

小矢部市は夢のある施策もあり、メルヘンあるいは、定住支援課を作って、積極的にやっているのでもいいと思っている。特に、男女共同参画に関わっているが、そこで思うのは、家庭と仕事の両立、優しい市の作り方、今はイクボスということで、企業が介護や育児に理解を示して支援するというので、ワーク・ライフ・バランスでバランスのとれた施策、定住支援課で先月から始めた、新入社員の初任給がいくらで、というのはすごくいいことだと思う。ここだけでなく、全国に配信している。イクボスも小矢部市は積極的に進めている。小矢部市は市長がいち早く取り組み、また、企業も積極的に取り組んでいただき、40社ほどやっていた。世界的にみると北欧のデジタル的な幸せ、ブータンはアナログ的な幸せ、それを見ると、北欧の方の生活形態と小矢部市の生活形態は良く似ている。森の幼稚園や、子供にやさしい市の作り方、メルヘンの世界、それを大事にしていきたい。費用はかかると思うが、それを費用をかけないようにして守っていただきたい。

それから、以前、松本元市長が進めていた、宮島は芸術の森、倶利伽羅は歴史の森、蟹谷はスポーツの森ということで、山を上手く活用して、心を豊かにしてあげる施設の整備を絶えないようにしていただきたい。

それから提案したいのだが、羽咋はU F Oのまちで仕掛けている。昔

から、世界で一番ミステリーなゾーンと聞いている。それは、東京大学の研究者の文献であるが、稲葉山の裏側を見ると、ミステリーゾーンだらけである。こちらはおとぎの森、こちらはミステリーゾーン、そういう天文的なパワースポットのような位置である。そういうものを開発して稲葉山に行くと天文的なものが展示してあるというようなことを深く突っ込んで欲しい。

人口は密度も大事で、集中的に集まる場所、均等に人口がいれば、色々な助け合いがうまくできるので、そういうところもしっかりとやっていただきたい。

吉田議員

まとめると、稲葉山の裏はパワースポット、そういうところを上手く人が来るように活かせというようなこと、イクボスも大事だと。

参加者

ヨーロッパを見るとセーナ川の川下りを活かして、川から岸を見ると全然違う。そういうことで、市の育成、お母さんが集まる、子どもが集まる、ワーク・ライフ・バランス。

吉田議員

お隣の方お願いします。

参加者

人口減少は小矢部に限らずどこにでもある話なので、市が進めている定住促進は大いに進めていただきたいが、やはり、住む人間としては、便利さ、買い物環境が重要になってくるのではないかと思う。また、富山県は全国的に見ても災害が少ないところなので、安全面でのPRを、富山県を中心にどんどん進めていただきたいと思う。また、人口減少に関連して、学校の統合問題の進み方が遅いと感じている。この前も答申が出ていたが、いつになったらまとまるのかというような進み方なので、それは、議会の方でも頑張っていたいただきたいと思う。

吉田議員

統廃合審議会はパブリックコメントを募集しているので、是非それに意見を寄せていただきたい。

参加者

地域にこだわりすぎているのではないかと感じている。

吉田議員

お隣の方お願いします。

参加者

人口減少は全国的な問題である。ひとつのところで頑張ってみても、結果的にパイの取り合いになるだけで、根本的には解決しない。おとこの新聞では芸能人が3組結婚していた。そういう雰囲気づくりも大事ではないかと思う。まず、結婚してくれないと子供もできないし、子供

ができれば、子供を大事に育てる施策になってくるのだが、まず、全国的にそういう雰囲気盛り上げる必要があると思う。小矢部市だけでやっても波及効果は少ないと思う。なんとか、合計特殊出生率2.08に向けた取組を、福井や沖縄などのモデルとなるような地域もあるので、国や県で広げていただくのがスタートではないかと思う。根本的などころを国や県がリーダーシップを取ってやっていただきたいというのが私の思いである。

吉田議員

雰囲気も大事だが、絶対数も大事なので、そこに有効な手立てがないかなということで、苦しいところではあるが。

それでは、お隣の方お願いします。

参加者

人口減少というのは、そもそも、私たちの世代から、兄弟が少なくなっている。自分の親は5人、6人兄弟がいたが、長い歴史の中でどんどん減っているのは確実である。これについて国を挙げて対策を取らなかったのが、今の状況につながっている。基本的には、学校で、なぜ、結婚して子どもを産むかということを教えないと、社会に出てから結婚しろといわれても、価値観の変化もあり、難しいところがある。ひとつはこのように出生率に関しては教育の問題があるだろうと思っている。

もうひとつは、転入者をどう増やすかということについては、100万円というアドバルーンを上げて注目されるような施策を採用したが、他の自治体でも実施していることもあり、そろそろ他のことをやらないとだめだろうと思っている。基本的には、買い物などの便利さといったものが、転入の魅力だろうと思う。一時の補助金をもらっても、その後、10年、20年住むことになるので、便利さや楽しさが重要だろうと思っている。

それから、もうひとつやって欲しいのが、対象となる女性の方の意見をどんどん聞くこと。男女のカップルでも女性が決定権を持っていると私は思っている。まずは、女性を徹底的にアンケート、意見を聞いて、施策に反映していくのが一番の近道ではないかと思っている。

吉田議員

お隣の方お願いします。

参加者

私は企画政策課で、以前定住関係の施策も実施していた。

皆さんが言うように、小矢部市に住んだら100万円というのをやり、他にも真似して、結果、どの市町村も財源もないのに競争して疲弊している。そういうことも考え直さなくてはいけない時期に来ているのではないかと思っている。東京一極集中なので、いかに帰ってきてもらうか、小さいときから子供への郷土愛を醸成して、将来的には小矢部に帰って

きてもらい、小矢部のために何かしたいという気持ちが生まれるように教育していただきたいと思っている。急に効果が出るものではないが、市としてはそういう形で動きたいと思っている。

吉田議員

先に紹介しておかなければならなかった。今発言していただいた方は小矢部市の定住施策の要の部署にいる。シティプロモーションの話もしていただいた方がいいのではないか。

参加者

シティプロモーションをして、都会の人に小矢部市のことを応援、PRしてもらって、小矢部市の関係人口を増やして、将来的には定住してもらう事も考えている。

吉田議員

お隣の方お願いします。

参加者

うちの息子も結婚しておらず、耳が痛いと思っていた。

小矢部市に魅力があるかないかということだと思う。周りを見ると、砺波、高岡、特に木津のあたりはどんどん人が増えている。利便性が魅力で、住環境がスピーディーに整備されている。小矢部市もアウトレットのタイミングなど、そういうチャンスがあった。アウトレットの従業員が住むところを探していたという話も聞いていた。その時には、小矢部市には住むところがなかった。チャンスを逃している気がしてならない。それから、企業誘致で働く場所を提供して、定住者を増やすことが大事だと思う。

吉田議員

アウトレットのときにチャンスがあったが、なかなか、提供する土地、アパート・マンションがなかった。それで終わったということではなく、この後、打てる手立てがあれば、という思いを常々持っている。

参加者

あの周辺に空き地があるが、そういうところをほったらかしにしておくのも、小矢部市自体のイメージも悪くなる。もう少しスピードディーに開発や計画を進めた方がいいのではないかと思う。

吉田議員

隣の方お願いします。

参加者

先週、富山新聞に出ていたのだが、富山市は目標人口を上方修正した。コンパクトシティで魅力的なまちを作っているが、そのような上方修正を行うということは、それなりの成果があがっているのだろうと思う。先ほども意見があったが、最後は住みやすいかどうかが重要だと思う。女性の意見、女性にダイレクトに届くようなものがあれば良いので

はないかと思った。余談だが、小矢部市に公園があるが、若い奥さん方に聞いてみるといずれも不評である。何が、子育て世代の母親にとって優れた公園かということが、ニーズがマッチしていないと感じる。例えばおとぎの森や、小松にも魅力的な公園がある。そのあたりも女性の思いを聞いて反映するのが近道だと思う。

吉田議員

小矢部市の公園が子育て世代にとって、魅力が感じられるものが少ないということだと思うが、クロスランドもある程度人は来ているようにも思えるので、そのあたりもご理解いただければと思う。

参加者

そういうことを言っていらっしゃる方もいるということである。実際に住む女性の方の意見を直接聞いていただくのが大事だと思う。

吉田議員

確かにそのとおりである。
お隣の方お願いします。

参加者

魅力づくりということに関連して、昔、荒川地区の4名で行って、市長室で提言した。

ひとつは、桜町の信号機についてである。道の駅ができる前に、交差点の名前を変えて魅力づくりを申請した。県外から人が来たときに、ここに何かあるのではないかと思わせる。桜町西、東といっても、関心を引かないので、「縄文の里」などとしてはどうかと提言した。変わった発想だと桜井市長は言われた。

二つ目は、道の駅にヘリポートを作ってくれと言った。ヘリポートはクロスランドにあるから不要とのことだった。

三つ目は、小矢部市の駅を新設してくれと言った。現在はそのように進んでいる。

小矢部市高齢者交流センター荒川サロンがある。平成15年にできた。ところが、皆さんが使いにくい、わかりにくいと言われるので、私なりに考えてみた。名前をメルヘンコスモホールにしてはどうか。メルヘンは小矢部、コスモは宇宙ということでみんなということ、ホールはみんなが集まる場所、自然にここに行こうということになる。

これはアンケートの裏に添付しておく。

吉田議員

これは、荒川サロンを名称変更するだけの要望と受け止めて良いのか。

参加者

そうである。荒川サロンという名前なので、使いにくく感じるということだった。誰が使ってもいいということで、保育所がなくなる機会に

合わせて、ということである。

吉田議員

次に、先ほどから女性の意見が大事ということだったので、注目していた。お願いします。

参加者

私は人口問題に関しては、女性の意見を真剣に聞かないと問題が解決しないと思っている。子供を産み育てるときに一番大事なのは生活の安定である。将来的に生活が不安定だと、子供を産み育てることができないので、夫婦とも収入が安定していないといけない。そのために、仕事と子育ての両立するための支援が重要だと思うので、そのための施策をお願いしたいと思っている。

100万円の定住促進の話が出たが、この状況を見ていると、市外にいたが、結婚して子育てする際には、親の力を借りたいということで、親の近くに家を建てるような傾向があると思った。奥さんが仕事を続けるために、子育ての協力をお願いするということだと思う。そういう要望が広くあるということをお願いしたい。

それから、ひとり親家庭に対する温かい施策をお願いしたい。色々な施策があるが、今のままでは足りない面もあると思う。これから世の中変わって行って、ひとり親、未婚のまま子育てしているような人たちがしっかりと生活できるような施策をお願いしたいと思う。

小中学校の統廃合のことについて、人口が減るのでそれも視野に入れてということだと思うが、親が願っていることは、子供の学力をつけることだと思う。そういう面からも少人数学級は大事なことだと思う。通いやすいということからも近くの方がいい。いじめの問題でも、先生の目が行き届くということからも、少人数学級がいいと思う。

吉田議員

ひとり親に優しい姿勢が必要だというご意見だった。

一回り発言いただいたが、まだ言い足りなかったという方がいればご発言いただきたい。

参加者

小矢部市は富山県の西側に位置して、片側は山に面しているので、人の流れは悪くなると思う。高岡や砺波のように四方八方から来るわけではないので。津幡町がすごく発展している。これは夢のような話だが、小矢部市と津幡町をもっと行き来しやすいように、山を削ってトンネルを通らないで行けるようになれば、石川県から呼び込んでもらうようにしていけばいいのではないかと思う。

参加者

観光に県境があってはいけないという話を聞いたこともあるので、今ほどのご意見は大事だと思う。交流があそこで切れないようにしなければ

ばいけない。

吉田議員

昇龍道構想、名古屋から上がってきて、能登半島に抜ける観光ルート。

参加者

小矢部市と津幡町は交流が盛んなので、倶利伽羅で綱引きをしているだけではもったいない。

参加者

砺波市の都市計画は民間が中心になってやっている。例えば、用地買収してその2割を民間にやって、民間の方がしっかりと動いて都市計画を考えて、市の職員と対応してやっていると聞いた。定かではないが、砺波市の人に直接聞いた。それが本当ならいいなと思った。だからどんどん発展していく。

出合議員

私も金屋本江の自治会長さんが、県の土地改良区におられた方で、おっしゃられていたのは、砺波市は先に道を描いた地図を作り、住民の皆さんにそれを話して、その道に従ってどういうものを建てていけばいいのかというものを、一緒に作っていかれたというふうに聞いた。そうすることによって、人が集中しやすいところ、通行しやすいところというものを全体で作っていったと聞いた。私どもも、市長も言っていたのは、アウトレットから市街地に向かう道路とか、道は血管と同じなので、しっかりと広げていくことが大事である。砺波の方も自衛隊がヘリポートを作るので、砺波小矢部線や正得に向かう道も拡幅しなければいけないという話が出ている。

参加者

津幡町も巻き込んで、大きい都市計画の話をしていけばどうかと思う。

出合議員

道と建物を別に考えていてもだめである、皆さんと一緒に作っていくということも大事だと思う。

参加者

30年前に、小矢部市にも、東京の山手線や大阪の環状線のような道路を作ってはどうかという話をしたときに否定されたことがあるが、出合さんがいわれたとおりだと思う。

出合議員

荒川の方の駅の話も、高岡やぶなみ駅のように、住宅がたくさん建つと。

参加者

氷見もいい。能越自動車道のおかげで30分で行ける。道路網の整備が

進んでいる。全体としてやっていくことを考えていけばいい。

出合議員

福井も中部縦貫で、恐竜博物館には人が多くなったと聞いている。道というのは大切である。

吉田議員

人口対策から、まちの魅力から発展して、なんでもありで、様々な議論をいただいている。さらにこの議論を、自由意見ということで発言いただいている構わないので、いかがか。

出合議員

最近、若林で、神社で子供に巫女さんの踊りを覚えたり、神事を一緒に学ぶ取組を振興会でやった。その理由を聞くと、東京に出ていくかもしれないが、故郷でこういうことをやっていたということを覚えておいてほしいという思いがあるということだった。実家に帰って来たときには思い出して欲しいということだった。行政もやっていかななくてはならないが、各地区でもできるので、皆さんの声を聞きながらやっていくというのが一番大事だと思う。議会報告会も今までは一方的に話をしていたが、なかなか、皆さんの声を聞くということがなかったので。

参加者

(仮称)石動コミュニティセンターの打ち合わせに出させていただいて、私は、新しい施設に、ライブハウスということで音響施設が整った部屋を作ってくれということで強く要望していた。そういう部屋ができるということだった。そうすれば若い人が集まる。

参加者

日本人を対象としているものが多いが、外国の方々、家族を連れてきている人もいるので、今後その割合が増えているので、いずれそれに合わせた施策もしていけないと感じている。

吉田議員

人手不足の影響もあり、外国人の方が必要になっているところがある。上手く付き合っていくことは避けて通れないことだろうとおもっている。

参加者

ホッケーのアウトレット杯は来年の3月に第2回目の開催を予定しているが、ホッケーを中心とした、アウトレットが地元で溶け込もうという姿勢が見える。そのイベントに全国から多くのチームが来ているが、どこで宿泊しているかという点、市内に宿泊施設がないことから、砺波や高岡で宿泊している。できるだけ小矢部市内に入り込むということを考えていただければと思う。ホテル問題も上手くいっていないようだが、宿泊施設が増えてくれれば、効果があると思う。

吉田議員	再来年はインターハイもあり、小矢部市はホッケー会場ということで、人工芝の張り替えの要望もしている。
出合議員	福島に行ったとき、Jビレッジというサッカーのところを視察で見えたが、宿泊してすぐに試合に行ける。小矢部市も小中学校の統廃合に伴って空いた学校をどう利用していくかということと、スポーツの森を掛け合わせて考えていくことは大切かもしれない。
吉田議員	最後に、これまでの議論を踏まえて思いがあればお願いしたい。
参加者	皆さんの貴重なご意見を聞いて、自分が浅はかだったと反省しつつ、こういった会がためになったと感じた。皆さんがおっしゃっていたように、女性の意見が大切ということは共感できる。同世代の女性の参加者がいないというのは残念だったが、小中学校の統廃合の会議にも出させていただいたが、私と同世代は自分しかおらず、女性も全くいなく、誰のための会議だったのかと強く思った。そういった面から、私も、今度は同世代の女性も誘って来たいと思う。皆さんの真剣な意見を聞いて、貴重なお時間を過ごさせていただいた。ありがとうございました。
吉田議員	そうすると、女性の意見も最後に締めくくりで聞かないといけない。
参加者	色々聞いていて、皆さんのご意見も参考にして、子供の時に、小矢部市でのお祭りなど、色々な行事を体験して、小矢部市はいいところだと思った人は、もしかしたら、都会に出ていってもまたもどってくるのではないかと思った。そういうことに力を入れることも大事だと思った。
吉田議員	郷土愛を育むということは大事だと思う。 それでは、最後に閉会の挨拶を砂田議員にお願いしたい。
全体挨拶 砂田議員	人口対策の方はどのような議論だったかわからないが、災害対策は非常に真剣で活発な議論が行われた。ここで議論されたことが、防災訓練や、日常生活の中で大いに話し合っ活かしていきたいと思う。人口増対策はまた、長期的な考えで大いにがんばっていくということで、今日は貴重なご意見をいただき、一方的に話をするだけでなく、皆さんと話をする機会を作ったということは、なかなか、福島議長はよく考えられたと思う。このような機会を今後も議会として作っていききたいと思う。今日はどうもありがとうございました。